



はあもにい 第30号

- ・発行日 2011年4月10日
- ・発行元 ポプリ生活介護事業部
- ・編集 はあもにい編集委員会
(0144)87-3800



利用者さんの夢を乗せて地域へ発進！発信！

<ケアホーム完成予想図面>



白老愛泉園は昭和59年に開設し、今年で27年を迎えます。現在40名の利用者さんが集団生活を送っていますが、平成24年2月末日を限りに入所更生施設の機能を終えて白老市街地のケアホームへ地域移行いたします。地域の皆さんの暖かな応援に感謝し、地域の一員として、ごく普通に当たり前の生活を目指し支援を行っていきます。

「障がいがあっても普通の暮らしが出来る地域社会」の確立をここ白老から発進したいと考えています。建設予定地の地域説明会では、地域住民から「人として支えあいたい」「何か協力できることがあれば」と理解協力も。改めて白老町民皆さんの心の深さと暖かさを実感しました。

(今年度のハーモニーは、愛泉園の地域移行を連載予定です。)

愛泉園地域移行特集!!

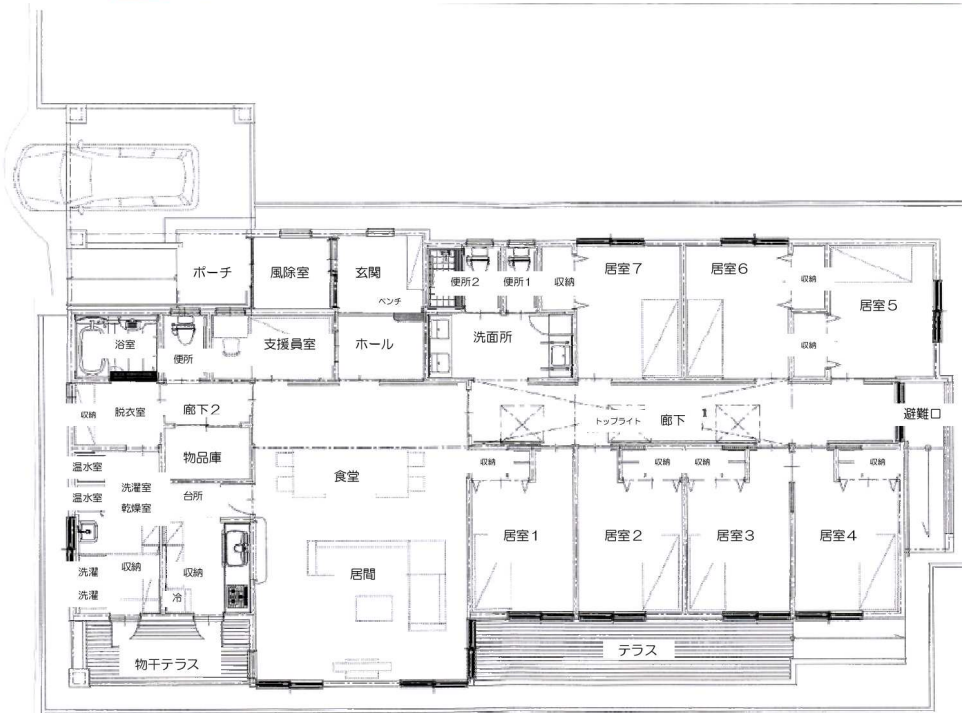
夢のマイホームへ向かって!!

* ケアホームⅠ *

タイプⅠ
 入居定員7名(個室)・宿直室1
 オール電化バリアフリー住宅
 木造:平屋建て・延べ床面積65.15坪
 非常通報装置・簡易スプリンクラー設置

特徴

ご高齢の利用者さんを対象として、将来車椅子での生活も可能なように、廊下幅や居間食堂を広く取った作りです。玄関から車への移乗もポーチがあり雨にも配慮しました。天窗は北側の居室へ柔らかな日差しを誘う作り。緊急時はスロープを利用して野外へスムーズに避難できます。8メートルもあるテラスは日向ごっこや夕涼みにも最適。ゆったりのんびり出来る「我が家」になることでしょう。(このタイプは1棟建設予定)

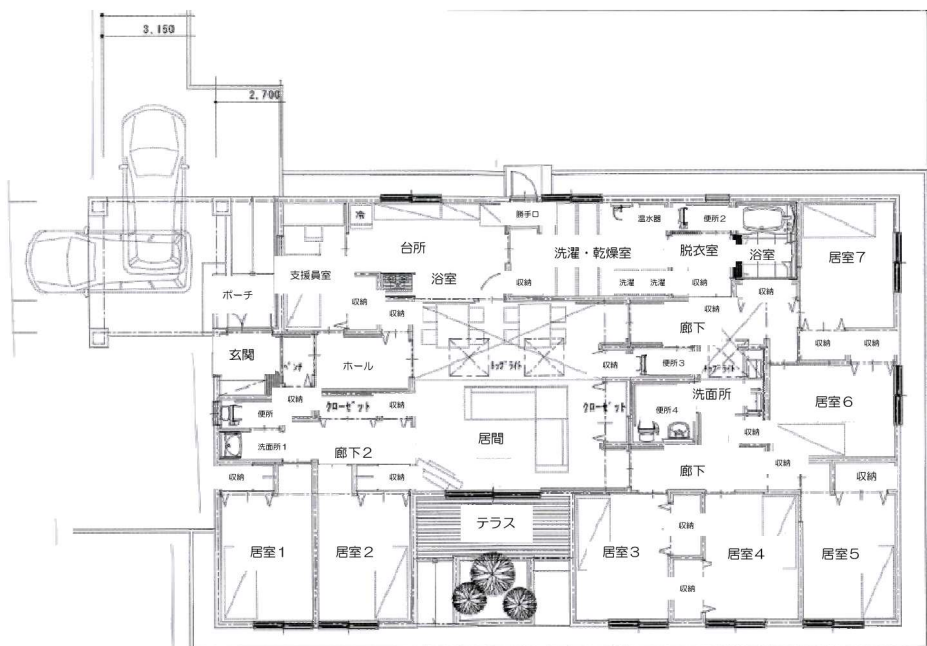


* ケアホームⅡ *

タイプⅡ
 入居定員7名(個室)・宿直室1
 オール電化バリアフリー住宅
 木造:平屋建て・延べ床面積61.25坪
 非常通報装置・簡易スプリンクラー設置

特徴

個々の居室から互いの部屋が見えないように配慮した作りです。自分にあった安らげる空間を作り確保することで、情緒的に安定した生活が可能になると思われます。天窗からの柔らかな自然な光で食卓を演出します。テラスを利用して夏場は夕涼みや野外バーベキューも楽しみですね。一人になりたい、仲間と一緒にいたい・・・利用者さんの願いが詰まった「僕の城・私の城」をかなえることが出来る夢の家に向かって匠の技が光る間取りです。(このタイプを4棟建設予定)





社会福祉法人 白老宏友会平成23年度事業運営方針



平成23年度の事業について、白老愛泉園の新体系移行（生活介護・就労継続B）や夜間支援のためのケアホーム5棟、共生型サロンの建設や24年度の施設整備費による市街地に日中系事業所（生活介護）の申請など建設に関わる事業が目白押しであります。その他としては、白老愛泉園の日中系移行に伴う内部改修や「あぶろ」の改修工事など行う予定であり、法人開設以来最大の事業計画を行う年であります。

また、新事業開設に伴う職員採用も多数に上り、これらの採用、研修についても長時間の研修が必要であり、それらの準備期間も早めに進めていかななくてはならない。

会計については、平成24年4月より新会計基準が施行する為、いち早く実施するため事務職員を中心に研修を行って行く予定であり法人全般の見直しの年と位置付けています。

1 法人経営の取り組み

法人経営に関して

- 新事業体系に向けた法人経営の企画立案と財政健全を図る。
- 法人本部機能を市街地に移行する準備期間。
- 各事業の建設関係連絡、調整、連携を密に図る。
- 法人各事業所の新体系移行に伴う諸規定の改正を検討する。
- ホームページの随時更新、機関紙「ばあもにい」の発行、監修を行う。
- 新会計基準の実施に伴う研修を行う。
- 新築ケアホーム等の開設を祝う式典の取り組みを図る。

利用者支援に関して

- 移行事業所（多機能型）において、B型の目標達成工賃や生活介護の療育プログラムの充実を図る。
- 旧法事業所（入所施設）においては、事業転換計画に基づき移行計画を進める。
- 施設整備に関して**
- ケアホーム5棟、共生型サロンを市街地に建設する。
- 旧法事業所の新体系移行に伴う内部改修を図る。
- 地域生活支援センターの一部をグループホームに改修する。
- 平成24年度施設整備（日中系・生活介護事業所）建設申請の準備を行う。

2 法人職員への取り組み

食員の意識改革に関して

- 全職員の公平性を常に配慮し、職員相互の友愛、信頼性の昂揚を高め、利用者さんに対する安心、安全の場を構築するための支援を行う。
- 職員の意識改革並びに職務遂行の重要性の認識を深める。
- 職員の資質の向上（キャリアパス）に努め各種研修を行い職員の意欲の向上を図る。

危機管理に関して

- 具体的な事態を想定し、避難訓練、情報収集、関係職員、機関団体への連絡統制などの徹底を図る。



知的障がい入所更生施設 白老愛泉園 事業計画



開設27年目を迎える白老愛泉園は入所更生施設としての役割を終えて、障害者自立支援法による新事業体系への移行を進め、年度途中の平成24年2月末日をもって入所更生施設支援を廃止し、3月より生活介護・就労継続B型の多機能型事業所、共同生活介護事業にそれぞれ移行します。そのため今年度においては、この計画に沿って準備を進めると共に必要な各種対応の手續きを行います。事業転換と共に伴う利用者さん本人ならびに保護者、地域住民、各行政機関等の折衝や理解・協力を得るためのさまざまな働きかけを行います。障がいがあっても普通の暮らしがしたいという願いを実現し、安全で健康な生活を地域の中で支えるための支援の枠組みを構築して行くための第一歩と捉えて事業を進めていきたいと考えます。

（基本方針）

- 新事業体系に伴う予算の立案と人事配置の立案。
- 入所施設運営の指定解除の届けと新事業運営の指定申請。
- 共同生活介護事業移行に係る指定申請。
- サービス管理責任者の育成と確保。
- 経費節減と適正な予算の執行。
- 愛泉園園舎改築に係る補助申請。
- 地域生活移行に伴う体験事業の実施。
- 他事業所と連携を図りながら、新規日中活動事業所開設へ向けた補助申請。
- 他事業所と連携を図りながら、共生型事業に係る開設準備（生活支援）
- 重度、高齢者の顕著化による生活支援の質の向上。
- 感染症、新型インフルエンザ対策および肥満防止対策の充実。
- 基本的な生活習慣の確立、身体的異状の早期発見および治療。
- 地域生活移行に係る準備と移動支援。
- 発達障がいへの理解と対応スキルの向上。
- （日中活動支援）
- 事故、怪我への配慮。
- 精神的安定を目指し、日々の活動性を高める。
- 椎茸栽培の生産体制の効率化を図りながら継続。
- よもぎ、くまささの入浴剤を中心とした薬草加工作業の継続と原材料の確保のための取り組みを行う。
- 空き缶、古紙回収等のリサイクル作業の継続。次年度に向けての活動休止への準備、対応。
- 洗濯、園内共用部分の清掃継続。
- （通所部支援）
- 在宅および地域生活者等の個々の利用者ニーズに応じた日中支援の場として行う。
- （短期入所支援）
- 緊急的な対応や家族ニーズに沿った対応を可能な限り行う。



指定障がい福祉サービス事業多機能型事業所ポプリ 事業計画



本年度は旧法の施設が障害者自立支援法に移行する期限となります。白老愛泉園も同様、この転換期を入所型から職住分離の地域型へと大きな舵取りを行います。措置制度から支援費制度、障害者自立支援法へと、着実に福祉の流れは「地域での普通の暮らし」に近づきつつありますが、白老においてはそのサービス資源は乏しいのが現状です。ポプリを利用される在宅の方々を含め、地域生活を安心して過ごせるための、サポートする仕組みについて、関係事業所と協力しながら今後進めていきたいと考えております。また、十一年目となるポプリは、就労継続支援事業B型・生活介護事業の更なる構築に向けてチャレンジする気持ちを忘れずに、利用者にとって、地域にとって有意義な活動を目指して行きたいと考えております。

〈就労継続支援B型事業〉
各事業部における技術の向上と収益性の向上を目指し、工賃向上を目指す。
①新製品の試作、開発
②設備の更新と機能的な設備整備（もち米用ボイラーを1台増設）
③他団体との活動協力
④外部販売イベントの積極的な参加

〈新たな販売形態の模索と研鑽〉
〈生活介護事業〉
簡易な生産活動及び創作活動など利用する方に、潤いある日中活動となるよう創意工夫を心がけ実施に当たる。
①作業Ⅱ下請作業・珈琲豆の焙煎・葉草茶製造・エントの栽培・広報紙作成
②創作活動とレクリエーションの実施他

〈行事〉
①自治会活動を主体とした行事の開催をサポート。（忘年会・新年会・毎月全体会等）
②作業部所ごとの行事企画

〈送迎サービス〉
通所困難者へ配慮した送迎支援サービスを継続。

〈研修活動〉
①事業に関連する各種研修への職員派遣。
②職員のスキルアップを目的とした研修の強化。
③パン・菓子を手がける福祉施設との情報交換による技術向上。

〈その他〉
①福祉サービスの低下とならないよう適宜行政への連携と協調。
②中期計画作成へ向けての研鑽。
③白老宏友会の地域移行事業への協力
④共生型事業への協力体制
⑤ポプリ正面玄関屋根の修繕
⑥各種設備の更新、改修整備



地域生活支援センター あぶろ 事業計画



今年度、開設7年を迎えた地域生活支援センターあぶろは、拠点建物と他に10ヶ所の共同生活住居に総勢42名の利用者定員となり、その支援を実施してまいります。昨年度、強化を行なっていた各ホーム単位会議に実施については、小単位でのケース協議の充実などよりコンパクトな支援としての実績がみられました。また、余暇支援としてサークル活動の取り組みについて成果と利用者のニーズに対応ができました。今後とも継続した支援を行なうてまいります。生活支援関係では、プランゲート(知的障害者専用のアセスメントシート)の導入により有効的な支援のために個別支援計画等記録面の効率を図り、また、預り金管理部門についても導入した会計ソフトの活用により日用品の会計管理を図ってまいります。本年の体制面としては、女子利用者さんの支援をより厚くし利用者さんの編成替えにより、生活支援員・世話人の増員・強化を行い支援の拡充を進めていきます。設備面につきましても、各環境の整備に向けて法人所有宅の保全管理を行ってまいります。また、新築借家の契約の検討を行ない環境向上のため積極的に取り組んでまいります。

法人の地域福祉事業の方向性について、白老愛泉園新体系移行に伴い白老地区に移行し開設を計画しているケアホーム及び共生型事業施設について、計画・準備・整備及びその実行を進めていきます。これまで行ってきた支援内容を十分に総括し、経済的な支援を基盤に、余暇や外出、旅行、社会参加など個々のニーズに合った支援内容の充実を図り、合わせてセンターの存在が地域住民に向けて将来のノウハウ構築に努めたいと考えています。

あぶろ運営理念
個人が尊重され、安心して、安全な生活が営めること
“生きている”実感を社会の一員として共生すること

ポプリ仲間の会 新年会



平成23年1月14日(金)、ポプリ仲間の会主催の新年会がポプリ2階食堂にて行われました。今回の新年会では、「ポプリ仲間の会」役員の野中さん、松田さんにとっては初めての司会進行役になりました。テーブルにはお寿司、お雑煮など豪華な料理が並べられ、皆さんが楽しんでいた新年会がいよいよ始まりました。まず始めに、成人の祝いが行われ、成人を迎えられた松田さん、野中さん、大山さんの3名に「ポプリ仲間の会」からそれぞれ記念品が贈呈され、成人の皆さんは、それぞれに仕事への意気込みを発表しました。次に、各部所ごとで2週間前から練習を重ねて臨まれた発表会が行われました。パン工場より『アンパンマン体操』、生活介護より『のど自慢』、給食部より『一発芸』等が披露され、皆さん大盛り上がり!!会場は笑いに包まれ楽しい時間を過ごすことができました!!また今回の新年会は、「ポプリ仲間の会」役員の皆さんが事前に打ち合わせをして個々に意見を出し合い、会場の装飾やゲームの内容を考え、司会進行についても野中さん、松田さんが主体となって取り組むことが出来ていたのではないかと思います。「ポプリ仲間の会」役員の皆さん本当にご苦労様でした。

是非なかまど

5月はイベントがいっぱい!!是非なかまどへ!!!

より多くのお客様にご来店していただきたく今年もGWも営業いたします!!また、なかまど19周年記念セール行いますので、5月は是非なかまどにお立ち寄り下さい。心より皆様のご来店お待ちしております。

*GW特別営業日

5月3日(火)

4日(水)

5日(木)

営業時間 9時~17時

*なかまど19周年記念セール
5月末予定。※日程については、決定次第ご報告します。
営業時間 9時~17時



あぶろ通信

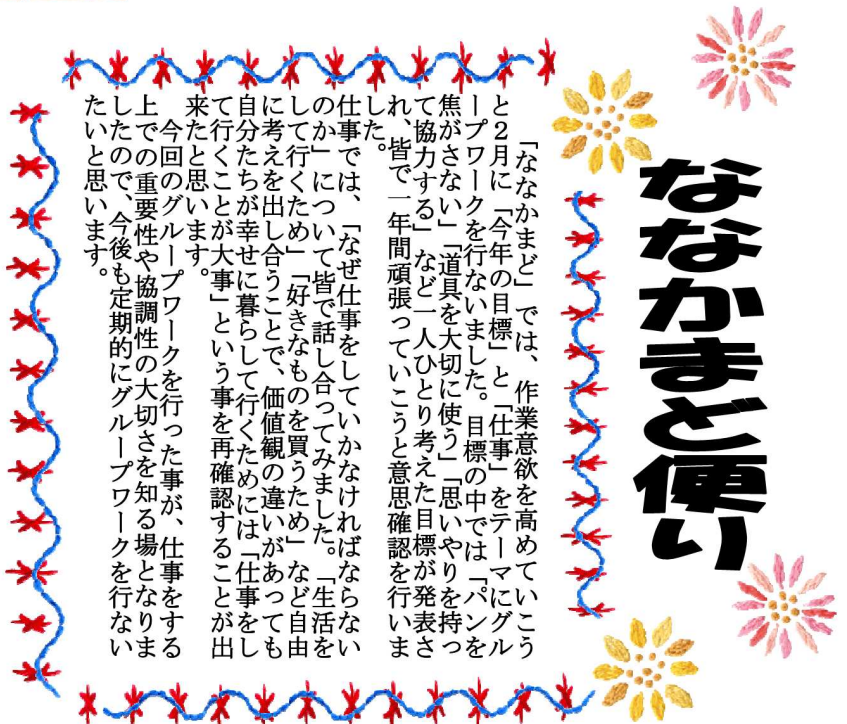
平成18年10月、障がい者自立支援法に基づき新体系に移行し、共同生活介護・共同生活援助一体型事業所として指定を受け、平成19年11月町内市街地に新設移転した「地域生活支援センターあぶろ」は地域生活利用者さんの支援活動の拠点として事業を進めてまいりました。平成20年1月には「短期入所（単独型）事業（ショートステイ事業・定員3名）の申請認可を受け、地域福祉ニーズへの対応を図ってまいりました。平成22年11月より懸案でありましたグループホーム住居の24時間体制について、一住居（4名）にて夜間支援体制の開始に至ることが出来対象利用者さんにとっての支援の充足化を計ることが出来ました。

地域の利用者支援の余暇活動、自治会組織「青葉会」の今期の状況について紹介させていただきます。

平成23年1月27日、オークラスパランドを会場に青葉会の新年会を開催しました。今年度は利用者さん・職員合計60名が参加しての行事となりました。当日は、皆さん温泉で楽しんだ後、利用者運営委員・大和田さんの司会により伊藤学会長の挨拶、笠谷副会長の乾杯で宴が始まりました。お楽しみの抽選会があり皆さん景品に笑顔でした。

カラオケでは多くの有志が参加し、最後に伊東富士夫さんの声がかけて全員の集合写真を撮影しました。新年のスタートにふさわしくとても盛り上がった行事となりました。

年度が改まり23年度となり、心機一転グループホームの引越しにより、支援体制の強化を行ないました。世話人の増員も実施しました。42名利用者さんと共に本年度も宜しくお願いたします。

ななかまど便り

「ななかまど」では、作業意欲を高めていこうと2月に「今年の目標」と「仕事」をテーマにグループワークを行いました。目標の中では「パンを焦がさない」「道具を大切に使う」「思いやりを持って協力する」など一人ひとりが考えた目標が発表されました。皆で一年間頑張っていこうと意思確認を行いました。

仕事では、「なぜ仕事をしていかなければならないのか」について皆で話し合ってみました。「生活のために行くため」「好きなものを買うため」など自由な考えを出し合うことで、価値観の違いがあっても自分たちが幸せに暮らして行くためには「仕事をしに行くことが大事」という事を再確認することが出来ました。

今回のグループワークを行った事が、仕事をする上での重要性や協調性の大切さを知る場となりましたので、今後も定期的にグループワークを行ないたいと思います。